

## 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

### 金正日総書記のロシア訪問

北朝鮮の金正日朝鮮労働党総書記が、7月26日から8月18日までの24日間、ロシアを公式訪問した。北朝鮮の最高指導者がロシア（旧ソ連）を訪問するのは、1986年に故金日成主席が訪問して以来、15年ぶりのことである。この15年間に世界の情勢は大きく変化した。今回は、金正日総書記のロシア訪問の意義とそれが北東アジアに与える影響についてまとめてみたい。

### 北朝鮮最高指導者のロシア訪問の意義

北朝鮮にとって、最高指導者の外国訪問は、経済援助など実際に得られる利益以上にその象徴的意味が大きい。今回のロシア訪問では、1984年に金日成主席がソ連・東欧諸国を歴訪した時と同じく、鉄道を利用した長期間の訪問となった。これは、国内的には故金日成主席と類似した足跡をたどることによって、金正日政権の正統性を高める効果がある。また、同行する多数の側近、随行者らがロシア社会を体験できるという副次的効果もある。

対外的には、北朝鮮とロシアの友好関係を世界にアピールすることができる。今回の訪問でも、ロシア側は、北朝鮮の対口債務などの問題があることは承知しつつも、朝鮮半島に積極的に関与していくことを表明した。<sup>1</sup>北朝鮮の対外関係の基軸は、米国・中国・ロシアであるとされるが、ロシアとの関係改善をなしたことは、対米関係を改善する上での大きな意義をもつ。

### 朝口間の主な合意・宣言

今回の訪問では、プーチン大統領との会談の結果、8月4日『モスクワ宣言』が発表された。ここでは、北朝鮮の平和的ロケット開発に対するロシアの支持、ロシアの朝鮮半島における関与の確認、過去に共同で始められた事業、特に電力分野の事業の再建計画への支持、両国は南北朝鮮とロシア・欧州を結ぶ鉄道輸送路の建設への支持などが確認された。<sup>2</sup>

鉄道輸送路の建設については、ロシアのアクションコ鉄道相と北朝鮮の金容三鉄道相が8月14日、シベリア鉄道

と南北朝鮮鉄道の連結に向けて、平康から元山（京元線の北朝鮮区間）を経て豆満江（ロシア国境）までの鉄道路線の整備・近代化に関する協力協定に調印した。<sup>3</sup>

### ソ連時代の訪問との違い

最高指導者のロシア訪問の意義のうち、象徴的意味はさておき、ソ連時代には、社会主義市場へのアクセスというご褒美が存在した。1984年5月17日から7月1日まで金日成主席は、当時のソ連、ポーランド、東ドイツ、チェコ・スロバキア、ハンガリー、ユーゴスラビア、ブルガリア、ルーマニアを訪問した。この訪問で、北朝鮮はソ連との貿易協定に合意し、「朝鮮民主主義人民共和国とドイツ民主共和国の親善および協力に関する条約」（期間25年）および「朝鮮民主主義人民共和国とブルガリアの親善および協力に関する条約」（期間20年）を締結し、長期間の社会主義諸国による援助を取り付けることができた。<sup>4</sup>しかし、今回の訪問では、全面的な経済支援は保証されなかった。<sup>5</sup>

### 両国をとりまく国際情勢と今後の課題

この15年の間に、北朝鮮をめぐる国際情勢は大きな変化をとげた。昨年6月には、韓国の金大中大統領が北朝鮮を訪問した。また、今回の訪問中には、韓国の民間人がチャーター機で北朝鮮を訪問するなど、南北朝鮮間の交流が着実に進展している。今回の訪口に対しても、韓国は歓迎の意を表明している。また、訪問先ロシアも韓国と国交を持ち、南北双方が交流を深めることを歓迎している。

9月には中国の江沢民国家主席が訪朝する。江沢民主席の引退前に訪朝が実現したことの意義は大きい。朝口関係を進展させ、朝中関係が安定した今、残されているのは、朝米関係である。米国との関係改善があったからこそ、中国が改革開放政策を実施できたことを考えると、朝米関係の改善とそれとともなう制裁の解除が北朝鮮の経済に与える積極的影響は大きい。北朝鮮が対米交渉を本格化させる布石としての今回の訪口の意義は大きい。北朝鮮の経済状況がかんばしくないことには変化はない。北朝鮮経済の建て直しはやっとスタートラインについたばかりである。

（ERINA調査研究部研究員 三村光弘）

<sup>1</sup> 「北ミサイルの脅威否定 朝朝首脳がモスクワ宣言」『共同通信ニュース速報』2001年8月5日07:50配信

<sup>2</sup> モスクワ宣言の要旨については、『日本経済新聞』2001年8月5日付を参照。

<sup>3</sup> 「鉄道連結で協力協定に調印=930キロ区間を整備・近代化へ-朝朝」『時事通信ニュース速報』2001年8月15日05:42配信

<sup>4</sup> バクテホ『朝鮮民主主義人民共和国対外関係史2』（社会科学出版社、1987年）214～219頁。

<sup>5</sup> ソシアは北朝鮮の対口累積債務問題には公式にはふれなかったようだが、これはロシアが対朝カードとして温存している可能性があるという見解がある。「朝朝、首脳会談でモスクワ宣言-専門家の見方、小牧輝夫・国士館大学教授」『日本経済新聞』2001年8月5日付。